

CA Spectrum®

Report Manager ユーザ ガイド

9.2.3



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複写、譲渡、開示、変更、複本することはできません。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、
(i) 本ドキュメントが関係する CA ソフトウェアの使用について CA とユーザとの間で別途締結される契約または (ii) CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者は CA です。

「制限された権利」のもとでの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2012 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルが参照している CA Technologies の製品は以下のとおりです。

- CA Spectrum® (CA Spectrum)
- CA Spectrum® Report Manager (Report Manager)
- CA Spectrum® IP Routing Manager
- CA Spectrum® SPM (Service Performance Manager)
- CA Spectrum® NCM (Network Configuration Manager)
- CABI (CA Business Intelligence)

CA への連絡先

テクニカルサポートの詳細については、弊社テクニカルサポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

目次

第 1 章: CA Spectrum レポートについて	7
概要.....	7
レポートのカスタマイズ.....	8
レポート スケジュール.....	8
オンデマンド レポート.....	9
アドホック レポート.....	9
レポートの発行.....	9
レポート タイプ.....	10
第 2 章: CA Business Intelligence について	13
CABI (CA Business Intelligence) の概要.....	13
BOXI (BusinessObjects Enterprise XI) の概要.....	13
InfoView の概要.....	14
InfoView で実行できること.....	15
第 3 章: レポートの使用方法	17
InfoView を使用したレポートの生成.....	17
レポート パラメータの概要.....	20
ユーザ名とパスワード:.....	20
安全な環境でのレポートの生成.....	21
レポートのグラフィック要素の表示.....	22
レポートのスケジュール.....	23
スケジュールされたレポートの表示.....	24
レポートの印刷.....	25
第 4 章: アドホックレポートの生成	27
アドホック レポートの概要.....	27
アドホック レポートのフォルダ構造.....	27
単純なアドホック レポートの生成.....	29
高度なフォーマットを使用した複雑なアドホック レポートの生成.....	32

第 5 章: WEBI サンプル レポート	37
WEBI サンプル レポートの使用	37
WEBI サンプル レポートへのアクセス	37
WEBI サンプル レポートのコピーおよび編集.....	38
Report Manager サンプル (WEBI) レポートの Java エラーの解決.....	39

第 1 章: CA Spectrum レポートについて

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[概要](#) (P. 7)

[レポートタイプ](#) (P. 10)

概要

CA Spectrum レポートは、CA Spectrum で管理しているネットワーク アセットのインベントリ、可用性、変更、パフォーマンス、および障害履歴の分析を提供します。レポートは、企業全体で共有できます。CA Spectrum レポートでは、必要なデータがコンパイルされ、指定した形式で提示されます。

CA Spectrum レポート データ サーバは、CA Spectrum ナレッジベースからデータを抽出し、そのデータをレポート データベースに格納します。企業に関連するネットワーク アセットのさまざまな局面について、情報を提供するレポートを生成できます。CA Spectrum レポートでは、IT 部門だけでなく、企業のその他の部門が必要とする情報も考慮できます。

CA Spectrum レポートにより、IT アセットに関して詳細に基づく決定を行い、以下の情報を提供できます。

- 最も問題の多いアセット
- 頻繁に発生しているイベントとアラーム
- ネットワークに配置されている特定ベンダーのルータまたは他のゲートウェイ デバイスの数量
- オフラインの頻度が最高のデバイスと最低のデバイス
- 変更されたアセットと削除されたアセット

レポートのカスタマイズ

CA Spectrum レポートでは、レポートに含めるコンテンツのタイプをカスタマイズして、指定できます。データを整理し、テキストとグラフィックを使用して表示する方法を指定できます。カスタマイズ機能には、以下のオプションがあります。

- アセット情報の詳細バージョンまたはサマリ バージョン。詳細情報には、デバイス、ポート、ベンダーなどのレポート項目のサブ ビューが含まれます。
- アセット タイプ、ランドスケープ、ベンダー、またはグローバル コレクション別に整理した情報
- 履歴期間 - 前日、先週、先月、前年、特定の日付範囲、または営業時間のアセット情報
- レポート レイアウト - タイトル、サブタイトル、ヘッダとフッタのテキスト、およびソート順序
- 表とグラフ
- 独自のアドホック レポート

詳細については、「[アドホック レポートの生成](#) (P. 27)」を参照してください。

レポート スケジュール

CA Spectrum レポートでは、1 回限りまたは定期的に、レポートの設定、保存、およびスケジュールを実行できます。レポートをスケジュールすると、CA Spectrum レポート機能により、指定した時間に自動的にレポートが生成され、結果が保存されます。他のユーザ用のレポートをスケジュールしたり、任意の数の受信者に対して電子メール レポートを設定したりすることもできます。

オンデマンドレポート

レポートを対話形式またはオンデマンドで実行すると、必要な最新情報を柔軟に生成できます。 オンデマンド レポート機能を使用すると、次のことを実行できます。

- さまざまなレポート タイプや設定を試行できます。テストを実行して、スケジュールしたいレポートを選択できます。
- さまざまな間隔や設定でレポートを生成することにより、IT インフラストラクチャで発生している重要な問題または傾向を調査できます。

アドホック レポート

CA Spectrum アドホック レポート機能により、独自のレポートを定義できます。CA Spectrum アドホック レポートでは、オブジェクトをドラッグアンドドロップして、環境に固有のレポートを構築できます。アドホック環境で利用できるデータ オブジェクトは、広範囲のカスタム レポート要件をサポートする CA Spectrum 属性の重要なサブセットです。

CA Spectrum アドホック レポートでは、レポートのあらゆる局面を定義できます。WEBI 機能を使用して、データ オブジェクト、パラメータ、およびレイアウトを選択できます。

詳細については、「[アドホック レポートの生成 \(P. 27\)](#)」を参照してください。

レポートの発行

CA Spectrum レポートでは、発行、プレゼンテーション、企業の記録要件に対応できるように、レポートを以下の形式で印刷および保存できます。

- Microsoft® Excel®
- Microsoft® Word®
- PDF
- RTF
- XML
- Crystal Reports® (RPT)
- CSV (カンマ区切り)

レポートタイプ

企業内のさまざまな情報要件に適応できるように、各種のレポートを生成できます。**CA Spectrum** レポートは、レポート パックにグループ化されます。各レポート パックには、ネットワーク アセットに関する特定タイプの情報を提供する、事前定義済みレポートが含まれています。

標準レポート パックには、以下のタイプのレポートが含まれています。

- **アラーム**

アラーム レポートでは、IT インフラストラクチャ内のアセットのアラーム イベントに関する履歴情報が生成されます。アラーム レポートにより、ネットワークのヘルスを評価し、アラームの傾向を識別し、再発したり定期的に発生したりしている問題を検索し、アラームが発生したアセットを特定できます。

- **アセット**

アセット レポートでは、アセット ポートの可用性やアセット ファームウェアのバージョンなど、IT インフラストラクチャ内のアセット インベントリに関する情報が生成されます。アセット レポートを使用して、ベンダー製品がインフラストラクチャ全体にどのように配置されているかを判別できます。製品が効率的に使用されているかどうかを評価し、改善の可能性を見つけることができます。

- **可用性**

可用性レポートには、IT インフラストラクチャ内のアセットの稼働時間およびダウンタイムに関する履歴情報が提供されます。「予測される可用性」レポートでは、しきい値または **SLA** に違反する前にアセットに許容されるダウンタイムを判別できます。

注: 計画された停止、または休日に発生する停止に関する除外情報については、**CA Spectrum** レポートの管理者に問い合わせてください。

- **イベント**

イベント レポートには、**CA Spectrum** モデルに対して生成された **CA Spectrum** イベントに関する情報が提供されます。すべてのモデルまたは選択したモデルについて、イベント レポートを生成できます。また、特定の期間中に最も頻繁に発生したイベントのランク付けリストを含むレポートを生成することもできます。イベント フィルタリング オプションにより、すべてのイベント レポートにおいて含めるか除外するイベントのコードを指定できます。

アップグレードレポートには、以下のレポートが含まれています。

- **レガシー レポート**

レガシー レポートは、アップグレード中に旧バージョンの **CA Spectrum** レポートから移行される、スケジュールされたレポートです。

また、**CA Spectrum** レポートでは、以下のオプションのレポート パックがサポートされます。

- **ネットワーク設定管理 (NCM)**

ネットワーク設定管理 (NCM) レポートには、NCM によって記録されたネットワーク設定アクティビティに関する情報が提供されます。詳細については、「**CA Spectrum Network Configuration Manager ユーザ ガイド**」を参照してください。

注: NCM レポートを有効にするには、OneClick と一緒に NCM がインストールされている必要があります。

- **レスポンス時間**

レスポンス時間レポートには、**CA Spectrum Service Performance Manager** がコンパイルしたレスポンス時間テストの結果と分析に関する情報が提供されます。レスポンス時間レポート パックには、レスポンス時間の問題がエンドユーザに影響する前に、これらの問題をトラブルシューティングできるように、トレンドと例外のレポートが含まれています。これらのレポートには、レスポンス時間における過去のパフォーマンスとトレンドがグラフ表示されます。例外レポートまたはトップ **N** レポートには、事前対策によって重大な問題を回避できる領域の詳細情報が提供されます。詳細については、「**CA Spectrum Service Performance Manager ユーザ ガイド**」を参照してください。

注: レスポンス時間レポートを有効にするには、OneClick と一緒に **CA Spectrum Service Performance Manager** がインストールされている必要があります。

■ サービスと SLA

「サービスと SLA」レポートには、サービスおよびサービス レベル アグリーメント (SLA) に関するサマリおよび履歴情報が提供されます。このレポートの焦点は、CA Spectrum Service Manager によって作成および管理されるサービス カスタマ モデルです。「サービスと SLA」レポートにより、サービス アセットを追跡し、サービスのヘルスを測定し、結果を分析することによって、サービス パフォーマンスを改善する方法を判別できます。

注: 「サービスと SLA」レポートを有効にするには、OneClick と一緒に Service Manager がインストールされている必要があります。

■ VPLS (Virtual Private LAN Service) レポート (OneClick と一緒に CA Spectrum VPLS Manager アプリケーションがインストールされている場合にのみ使用可能)

CA Spectrum VPLS Manager は、VPLS 技術を展開しているサービス プロバイダを対象とした CA Spectrum アドオン管理アプリケーションです。CA Spectrum レポートに CA Spectrum VPLS Manager を統合することによって、VPLS 環境のヘルスを監視するためのレポートを表示できます。詳細については、「CA Spectrum VPLS Manager ガイド」を参照してください。

詳細

[レポートの使用方法](#) (P. 17)

第 2 章: CA Business Intelligence について

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[CABI \(CA Business Intelligence\) の概要 \(P. 13\)](#)

[BOXI \(BusinessObjects Enterprise XI\) の概要 \(P. 13\)](#)

[InfoView の概要 \(P. 14\)](#)

CABI (CA Business Intelligence) の概要

CA Spectrum レポートは、CA Business Intelligence (CABI) を使用してレポートを表示します。

CABI は、情報を提示し、ビジネス上の意思決定をサポートするために、CA Spectrum および他の CA 製品が使用する、レポート分析ソフトウェア パッケージです。CA Spectrum は CABI を使用して、効果的な企業 IT 管理に必要な情報をレポートにより統合し、分析し、かつ示します。

CABI は、SAP BusinessObjects Enterprise XI と、情報の管理、レポート、クエリ、および分析のためのツールセットで構成されています。

CABI の SAP BOXI (BusinessObjects Enterprise XI) は、スタンドアロン コンポーネントとしてインストールされます。独立してインストールされるので、Business Intelligence サービスを他の CA 製品と共有できます。CABI のインストールは、全般的な CA 製品のインストール プロセスの一部として個別に実行します。

詳細については、「CA Business Intelligence 実装ガイド」および「CA Business Intelligence リリース ノート」を参照してください。

BOXI (BusinessObjects Enterprise XI) の概要

BOXI (BusinessObjects Enterprise XI) は、CA Business Intelligence によりパッケージ化されて提供されます。BOXI は、IT インフラストラクチャに統合できる、柔軟性、拡張性、および信頼性を備えたビジネス インテリジェンス レポート システムです。

CA Spectrum は、BusinessObjects Enterprise 技術を使用して、レポート、クエリ、分析などの広範囲のビジネス インテリジェンス機能セットを使用します。CA Spectrum は、BusinessObjects Enterprise が提供する以下のレポート技術を使用します。

-  Crystal Reports® - 共通レポート フレームワークにより、CA 製品は BusinessObjects Enterprise Crystal Reports Viewer を使用してレポートを配信できます。Crystal Reports フレームワークからのレポートには、Crystal Reports のアイコンが付けられます。
-  WEBI (BusinessObjects Web Intelligence®) - データ アクセス、調査、および対話を簡単に実行できる簡易クエリ分析ツールです。WEBI のドラッグアンドドロップインターフェースにより、独自のレポートを構築できます。WEBI インターフェースからのレポートには、WEBI アイコンが付いています。

InfoView の概要

BusinessObjects Enterprise InfoView (InfoView) は、以下の機能でレポートを管理できる Web ベース インターフェースです。

- 参照および検索機能
- コンテンツ アクセス (作成、編集、および表示)
- コンテンツのスケジューリングおよび発行

InfoView の機能は、単純な Web アプリケーションというより、Windows アプリケーションに似ています。InfoView のツールバーは動的に変更され、実行する機能と一致するコンテキストメニューにより、アクションが提供されます。レポート構造には一貫性があり、セキュリティと許可が提供されます。

また、InfoView では、WEBI (Web Intelligence) デザイナにアクセスできます。WEBI デザイナでは、単純なドラッグアンドドロップインターフェースにより、カスタマイズしたレポートを作成できます。効率的なフィルタリングオプションによるカスタム データ オブジェクト選択により、環境にあわせたレポート機能を使用できます。[基本設定] を使用して、InfoView スタート ページをパーソナライズし、表示オプションを指定し、他のタスクを実行できます。

[基本設定] を使用して、InfoView スタート ページをパーソナライズし、表示オプションを指定し、他のタスクを実行できます。詳細については、「CA Business Intelligence 実装ガイド」を参照してください。

InfoView で実行できること

CA Spectrum r9.2 より前の CA Spectrum レポートでは、独自仕様のカスタム ユーザ インターフェースのフォルダ構成を使用していました。

現在は、CA BusinessObjects Enterprise XI InfoView を使用して、CA Spectrum レポート機能を実行できます。InfoView の主要な利点は、レポート機能を備えたほとんどの CA 製品が、一貫した方法で提示されることです。InfoView により、CA 製品は、共通リポジトリに格納されるレポート コンテンツを使用します。共通の InfoView インターフェースによって、CA レポートは同じ方法で実行され、スケジュールされます。

第 3 章: レポートの使用方法

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[InfoView を使用したレポートの生成](#) (P. 17)

[レポートのスケジュール](#) (P. 23)

InfoView を使用したレポートの生成

レポートを生成して管理するには、OneClick ホーム ページから InfoView にアクセスします。

OneClick 管理者に、次の情報を確認します。

- サポート対象の Web ブラウザ
- InfoView にアクセスするための BOXI ログイン認証情報

次の手順に従ってください:

1. OneClick にログインします。

2. OneClick コンソールの [InfoView] タブをクリックします。

[CA BusinessObjects InfoView] ウィンドウが表示されます。

注: Web ブラウザから直接 InfoView を開いて、CA Spectrum レポートにアクセスすることもできます。通常の URL フォーマットは以下のとおりです。

`http://<hostname>/InfoViewApp`

3. [ドキュメントリスト] フォルダをクリックします。

[ドキュメントリスト] フォルダでは、CA Spectrum レポートを含むすべての InfoView レポートを表示できます。

4. [パブリック] フォルダ、[CA レポート] の順に選択します。

注: [基本設定] セクションで、[CA レポート] フォルダを InfoView スタート ページとして設定できます。詳細については、「CA Business Intelligence 実装ガイド」を参照してください。

5. [CA Spectrum レポート] を選択します。

アクセス権限が付与されているレポート パックにアクセスできます。レポート パックにアクセスできない場合は、管理者に問い合わせてください。

6. 選択したレポートに対してパラメータ値を指定します。

次の図に、[ベンダーおよびタイプ別の可用性: すべてのデバイス] レポートのパラメータ設定を示します。

ca technologies

ホーム | ドキュメント一覧 | 開く | 送信先 | ダッシュボード

Enter parameter values for the selected report here. When finished, click the "View Report" button at the bottom of the page.

- **How do you want to select the date range?**
 - ☒ Predefined Time Period
 - ☐ Last X Time
 - ☐ Date Range
- **Select Time Interval**
 - Previous Day
- **Use Business Day Hours?**
 - ☒ True
 - ☐ False
- **Business Day Start**
 - 8 :00
- **Business Day End**
 - 17 :00
- **Include outages that occurred on weekends?**
 - ☒ True
 - ☐ False
- **Enter Availability Target**
 - 99.00
- **Report Title**
 - Availability by Vendor and Type: All Devices
- **Report Subtitle**
 - Availability of all devices broken down by device type an

View Report

7. [レポートの表示] をクリックします。
レポートが表示されます。
8. レポートをエクスポート/保存するには、[エクスポート] アイコンをクリックして、保存するレポートのタイプを選択します。
レポートが保存されます。

レポート パラメータの概要

CA Spectrum レポートを生成する際に、[パラメータ]ダイアログにより、レポートに適用できるパラメータを指定できます。

すべてのレポートに、カスタマイズできるレポート タイトルとサブタイトルが含まれています。日付範囲パラメータを使用すると、アセットの可用性および関連する変更と問題についての履歴情報を提供するレポートを生成できます。

また、レポートには情報をグラフまたはテーブル形式で表示するパラメータが含まれています。

ユーザ名とパスワード:

OneClick ユーザは、自動的に BOXI に追加されます。デフォルトの BOXI パスワードは、**username** です。初回ログイン時に、デフォルトのパスワードを変更してください。

デフォルトの BOXI パスワードが設定されている場合は、パスワードのリセットについて Report Manager 管理者に問い合わせてください。詳細については、「CA Spectrum Report Manager インストールおよび管理ガイド」を参照してください。

管理者は、CMC（Central Management Console）を使用して、ユーザを直接 BOXI に追加できます。CMC は、ユーザ、コンテンツ、サーバの管理など、管理タスクを実行するための単一インターフェースの Web ベースツールです。CMC により、BusinessObjects Enterprise コンテンツのセキュリティ レベルを発行、整理、および設定できます。詳細については、「CA Business Intelligence 統合ガイド」を参照してください。

安全な環境でのレポートの生成

CA Spectrum Report Manager では、レポートの生成をアクセス権限のあるモデルだけに制限するために、モデルベースのセキュリティが導入されています。CA Spectrum レポートでは、OneClick で確立されたモデルベースのセキュリティの実装がサポートされます。

OneClick ユーザとして存在する CA Spectrum レポート ユーザの場合、ユーザアクセスの解決に、以下のコンポーネントが含まれます。

- ユーザセキュリティコミュニティ
- ランドスケープメンバシップ
- モデルランドスケープによる CA Spectrum レポートのデータ表示許可
- モデルのアクセス可否を判別するセキュリティ文字列

次の図に、新しいアクセス解決プロセスを示します。



注: 対応する OneClick アカウントを持たない CA Spectrum レポート ユーザには、初回にすべてのモデルへの無制限のレポートアクセスが提供されます。

モデルへのアクセス権限がある場合は、解決プロセス中でも、そのモデルについてレポートできます。モデルにアクセスできない場合、そのモデルに関するすべての情報（モデルに関する詳細または集合的なモデル値）が、レポートに反映されません。

詳細については、「CA Spectrum Report Manager インストールおよび管理ガイド」を参照してください。

レポートのグラフィック要素の表示

CA Spectrum レポートでは、多くのレポートでグラフィック要素を使用して、ネットワーク アセットに関する各種の情報を表示できます。たとえば、頻度、割合、トレンドなどです。グラフィック要素を使用し、広範囲の対象者（技術者および非技術者）への報告やプレゼンテーション用のレポートを生成できます。

CA Spectrum レポートには、以下のグラフィック要素を表示できます。

棒グラフ

CA Spectrum レポートでは、アセットに何らかの問題（アラームなど）が発生した場合の数量や相対的な頻度、または異なるアセットの比較ランキング（可用性など）のレポート結果を、棒グラフで表示できます。

アラーム レポートの棒グラフは、特定の期間にアセットの特定のグループに発生したアラームの回数を示します。グラフにより、グループ内の各アセットのアラームの回数と割合がわかります。

円グラフ

CA Spectrum レポートでは、レポート結果の割合について、パーセンテージによる内訳を円グラフで表示できます。

たとえば、以下のアセットを円グラフで表示できます。

- スイッチ ルータとスイッチが同数の割合
- ルータのほうが大きい割合
- ネットワーク セグメント内の ping 可能な非特定デバイスの小さな割合

折れ線グラフ

CA Spectrum レポートでは、レスポンス時間レポートの時間経過による連続データを、折れ線グラフとしてグラフ化できます。折れ線グラフにより、特定の期間における遅延時間の変動を、ミリ秒単位で表示できます。

色インジケータ

CA Spectrum レポートでは、アラーム レポートのアラームの重大度とアラーム エントリを、状態の色インジケータで表示できます。可用性レポートのしきい値の準拠レベルを示す場合は、CA Spectrum に固有の色スキームが使用されます。

レポートのスケジュール

レポートをスケジュールするには、[スケジュール] ウィンドウを使用します。スケジュールされたレポートを正しく実行するには、[パラメータ] ページ上でオプションを選択します。

次の手順に従ってください:

1. OneClick にログインします。
2. OneClick コンソールの [InfoView] タブをクリックします。
[CA BusinessObjects InfoView] ウィンドウが表示されます。
3. [ドキュメントリスト]、[パブリック] フォルダ、[CA レポート]、[CA Spectrum] の順に選択します。
CA Spectrum レポートのリストが表示されます。
4. レポートを選択します。
5. 右クリックして、[スケジュール] を選択します。
[スケジュール] ウィンドウが表示されます。
6. [パラメータ] をクリックします。
[パラメータ] ページが表示されます。
[パラメータ] ページは動的で、必要なレポート値に応じて各種のフィールドが提供されます。[パラメータ] ページは、オンデマンドレポートを実行する場合も表示されます。
7. [パラメータ] ページでパラメータ値を指定し、[パラメータ値の設定] ボタンをクリックします。
注: [パラメータ値の設定] を選択しないと、レポートにパラメータ値が設定されず、スケジュールされたレポートは生成されません。
8. [スケジュール] ボタンをクリックします。
レポートがスケジュールされます。

スケジュールされたレポートの表示

レポートをスケジュールした後、そのレポートのスケジュールされたインスタンスを確認することで、スケジュールを確認できます。

履歴レポートは、すべてのインスタンス、所有しているインスタンス、完了したインスタンスが表示されるように設定できます。また、時間によってインスタンスをフィルタリングできます。

同じオンデマンド レポートから複数のスケジュールされたレポートを作成した場合は、スケジュールされたレポートのすべてのインスタンスがリストされます。 [タイトル] 列で並べ替えることにより、インスタンスのリストを整理できます。

次の手順に従ってください:

1. [CA BusinessObjects InfoView] ウィンドウに移動します。
2. [ドキュメント一覧]、[パブリック フォルダ]、[CA Reports]、[CA Spectrum] の順に選択します。

CA Spectrum レポートのリストが表示されます。

3. レポートを選択します。
4. 右クリックして、[履歴] を選択します。

[履歴] ウィンドウには、そのレポートに対してスケジュールされたインスタンスの履歴が表示されます

レポートの印刷

すべてのレポートは、レポート ビュー、重複レポート ビュー、およびレポート サブビューから印刷できます。印刷のセットアップ処理中に、**CA Spectrum** レポートにより、レポートが **PDF** ファイルに保存されます。この **PDF** ファイルを印刷または保存できます。

注: レポートを印刷するには、**Adobe Acrobat Reader** がインストールされている必要があります。

次の手順に従ってください:

1. [CA BusinessObjects InfoView] ウィンドウに移動します。
2. [ドキュメント一覧]、[パブリック フォルダ]、[CA Reports]、[CA Spectrum] の順に選択 します。
CA Spectrum レポートのリストが表示されます。
3. 印刷するレポートを選択します。
4. [このレポートを印刷] をクリックします (ブラウザの印刷アイコンは *使用しない* ください)。
[PDF に印刷] ウィンドウが開きます。
5. レポート全体を印刷するには、[全ページ] を選択します。または、[開始] フィールドと [終了] フィールドにページ範囲を入力します。
6. [エクスポート] をクリックします。
[ファイルのダウンロード] ダイアログ ボックスが表示されます。
7. 以下のいずれかの手順を実行します。
 - すぐにレポートを印刷する場合は、以下の手順に従います。
 - a. [ファイルのダウンロード] ダイアログ ボックスで [開く] をクリックします。レポートが、**Adobe Acrobat Reader** の **PDF** ファイルで開きます。
 - b. **Adobe Acrobat Reader** の印刷オプションを使用して、レポートを印刷します (**Adobe** ウィンドウからレポートをコンピュータに保存することもできます)。

- レポートを保存して後で印刷する場合は、以下の手順に従います。
 - a. [ファイルのダウンロード] ダイアログ ボックスで [ファイルの保存] をクリックし、[名前を付けて保存] ウィンドウを表示します。
 - b. デフォルトのファイル名「ReportViewer」に代わるファイル名を入力して、**Adobe Acrobat** 文書として保存します。

レポートが印刷されます。

第 4 章: アドホック レポートの生成

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[アドホック レポートの概要](#) (P. 27)

アドホック レポートの概要

CA Spectrum アドホック レポートは、独自のレポートを柔軟に定義できる機能です。アドホック レポート機能を使用して、次のアドホック レポートを生成できます。

- 単純なアドホック レポート
- 複雑なアドホック レポート

CA Spectrum アドホック レポートでは、以下の機能を使用して、独自のレポートを定義できます。

- データ オブジェクトのカスタム選択
- グラフ オプションのカスタム選択
- レポート コンポーネントのカスタム レイアウト

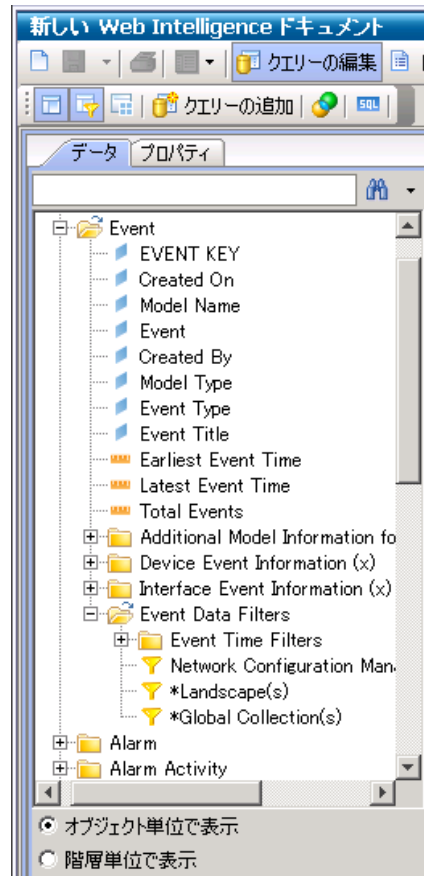
カスタム レポートを有効にするために、CA Spectrum レポートは、ユニバースと呼ばれる内部的に設計された BusinessObjects メタデータ レイヤを使用します。ユニバースは、BusinessObjects によって提供されるデータ抽象メカニズムで、基盤となるデータ構造を熟知していなくてもデータベースからデータを検索できます。アドホック レポートのニーズをサポートするために、CA により BusinessObjects Enterprise ソフトウェアに、CA 固有のユニバースが展開されています。

アドホック レポートのフォルダ構造

各主要フォルダ（アセット、イベント、アラーム、アラーム アクティビティ、可用性/停止）内に、プライマリまたはコアのオブジェクト / フィールドがあります。サブフォルダには、サポート対象のオブジェクトが提供されます。



重要: 各主要コンテンツ フォルダが、レポート開発用の自己完結型リソースであると考えてください。レポートの設計では、1つの主要コンテンツ領域（アラームなど）のオブジェクトと別の領域（アセットなど）のオブジェクトを混在させないでください。異なるコンテンツ領域のオブジェクトを混在させると、データベースに対して長時間のクエリが実行されます。



次の図に、アドホック レポートのフォルダ構造を示します。



大文字のフィールドは、メジャー コンテンツ フォルダに関連する論理レポート エントリを一意に識別するキーまたはオブジェクトを示します。たとえば、イベント レポートのクエリに **EVENT KEY** オブジェクトを含めると、レポート結果のセットに一意のイベントが返されます。

各アイコンの説明は、次のとおりです。

-  ディメンション オブジェクトを示します。
-  測定オブジェクトを示します。

-  条件またはフィルタを示します。既定の条件を使用すると、効率的にレポートを開発できます。
- * 条件またはフィルタを示します。レポートの実行時に、詳細情報に関するダイアログが表示されます。
- (x) このフォルダ内に含まれるオブジェクトを示します。(x) が付いている別のフォルダのオブジェクトと混在させないでください。

たとえば、[Device Event Information (x)] フォルダと [Interface Event Information (x)] フォルダの両方のオブジェクトを含めると、結果は生成されません。1つのモデルを、同時にデバイスとインターフェースの両方にすることはできません。

単純なアドホックレポートの生成

Web Intelligence を使用して、単純なアドホック アラーム レポートを生成できます。Web Intelligence には、CA BusinessObjects InfoView からアクセスできます。

CA Spectrum アドホック レポートを使用する前に、以下の考慮事項を確認してください。

- 効率的に実行されるレポートを作成するには、できる限り、時間フィルタを使用します。
- レポートの実行対象となるデータの量を考慮します。たとえば、1日当たり 100 万件のイベントが生成されている場合、年内累積のイベントレポートを実行すると、パフォーマンスがきわめて低下する可能性があります。必要なデータが得られる最短の時間フレームを指定してください。

次の手順に従ってください:

1. [CA BusinessObjects InfoView] ウィンドウにアクセスします。
2. [ドキュメント一覧] をクリックします。

3. [新規作成]、[Web Intelligence ドキュメント] をクリックします。
[Web Intelligence ドキュメント - 新規ドキュメント] ウィンドウが開き、Business Object ユニバースのリストが表示されます。
4. [Spectrum Ad Hoc - MySQL - EN] ユニバース タイプを選択し、新しい CA Spectrum アドホック レポート Web Intelligence セッションを起動します。

Web Intelligence アプリケーションの起動中を示すメッセージが表示されます。

注: 新しい Web Intelligence セッションを開始するプロセスでは、Java アプレットがロードされるまで、数分かかることがあります。

[Web Intelligence] ウィンドウが表示されます。データ パネル構造と CA Spectrum レポート構造が並列に配置され、以下のノードが表示されます。

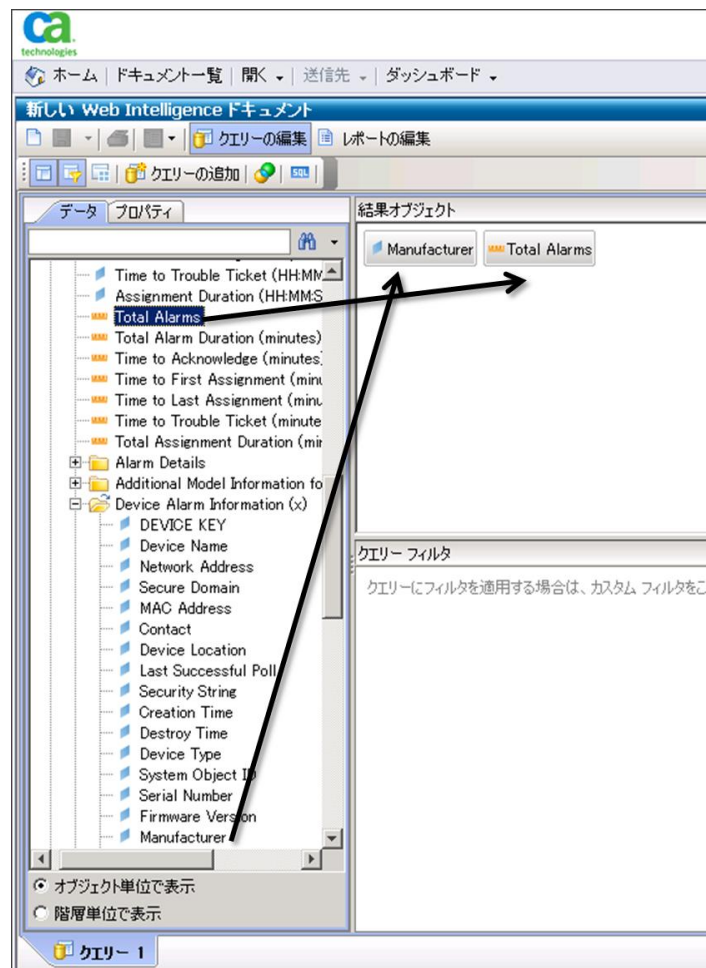
- アセット
 - イベント
 - アラーム
 - アラーム アクティビティ
 - 可用性/停止
5. + 符号をクリックすると、フォルダが展開され、そのフォルダのコンテンツに関連するデータ オブジェクトとフィルタが表示されます。

6. [アラーム] フォルダを展開してオブジェクトを表示します。

[データ] パネルから [結果オブジェクト] パネルにフィールドをドラッグアンドドロップします。

たとえば [アラーム] パネルから [結果オブジェクト] パネルに、製造元 (Manufacturer) オブジェクトとアラーム合計 (Total Alarms) オブジェクトをドラッグアンドドロップします。製造元オブジェクトは、デバイス アラーム情報 (Device Alarm Information) サブフォルダにあります。

次の図に、製造元オブジェクトとアラーム合計オブジェクトを [結果オブジェクト] パネルにドラッグアンドドロップするプロセスを示します。



7. フィルタ オプションをドラッグ アンド ドロップします。
 - 今期年度中に発生したアラームだけを表示するには、アラーム データ フィルタ (Alarm Data Filters) サブフォルダを展開します。
 - アラーム時間フィルタ (Alarm Time Filters) サブフォルダを展開します。次に、「過去 1 年間 (YTD)」フィルタを [クエリ フィルタ] パネルにドラッグ アンド ドロップします。
8. [クエリの実行] を選択して、指定したオブジェクトに対するクエリを実行します。

デフォルトのレポート (単純でフォーマットされていないレポート) の結果を含む、[レポート ビュー] パースペクティブが表示されます。

次の図は、デバイス製造元によって今期年度中に発生したアラーム数を示しています。

Manufacturer	Total Alarms
Cisco	715
Concord	71
Extreme	38
Juniper	17
net-snmp	27
Reserved/SNMP	65
Riverstone	45

9. (オプション) 使用可能な形式オプション (タイトル、テンプレート など) を使用して、レポートをオートフォーマットします。
 10. [名前を付けて保存] をクリックして、ドキュメントを [お気に入り] フォルダに保存します。(オプション) レポートは、ローカルデスクトップに保存するか、BOXI Enterprise に発行することもできます。
- 単純なアドホック レポートが生成されます。

高度なフォーマットを使用した複雑なアドホック レポートの生成

複雑なアドホック レポートは、単純なアドホック レポートを変更することによって生成できます。 レポートを詳細にフォーマットすると、より使いやすくなります。

次の手順に従ってください:

1. 生成済みの単純なアドホック レポートにアクセスします。
基準レポートには、デバイス製造元によって発生した年度累計のアラーム数がキャプチャされます。
2. データを並べ替えるには、並べ替える列のヘッダを選択し、[ソート]をクリックします。
3. [クエリの編集] を選択します。

たとえば、以下の手順を実行して、レポートをフォーマットできます。

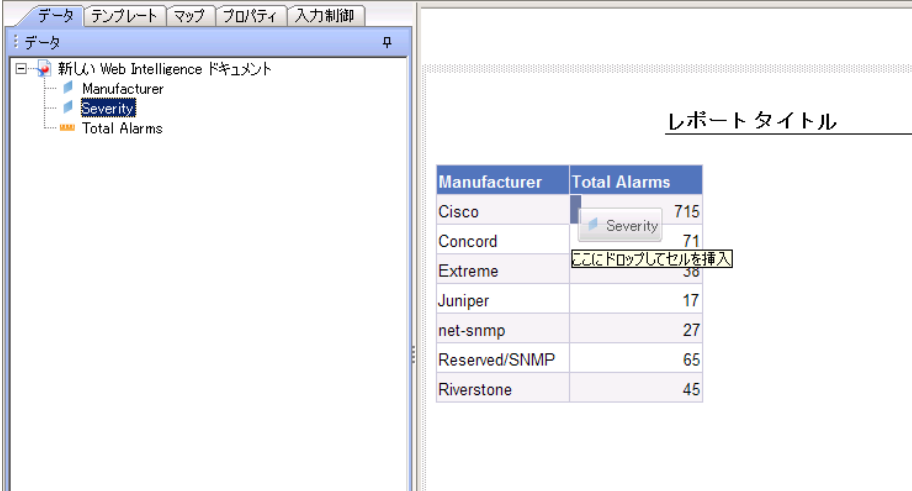
1. [アラーム] フォルダにある重大度 (Severity) オブジェクトを [結果オブジェクト] パネルにドラッグします。
2. [クエリの実行] を選択します。
3. 変更したクエリを実行します。

[レポート ビュー] が表示されます。

レポートが更新され、新たにレポート クエリに追加した [重大度] フィールドが含まれます。

4. 重大度オブジェクトをレポート テーブルにドラッグ アンド ドロップします。

更新されたレポート テーブルに 3 つの列が含まれます。



The screenshot shows a software interface for editing a report. On the left, a tree view under 'データ' (Data) shows a folder '新しい Web Intelligence ドキュメント' containing 'Manufacturer', 'Severity', and 'Total Alarms'. On the right, a table titled 'レポート タイトル' (Report Title) is displayed. The table has three columns: 'Manufacturer', 'Total Alarms', and 'Severity'. The 'Severity' column is currently being edited, with a dropdown menu open showing the value '71'. A tooltip 'ここにドロップしてセルを挿入' (Drop here to insert cell) is visible over the 'Severity' cell for the 'Concord' row. The table data is as follows:

Manufacturer	Total Alarms	Severity
Cisco	715	
Concord	71	71
Extreme	38	
Juniper	17	
net-snmp	27	
Reserved/SNMP	65	
Riverstone	45	

5. 既存のテーブルをクロス集計テーブルに変換し、重大度を Y 軸、製造元を X 軸に表示するには、[製造元] 列のヘッダをテーブルの上部にドラッグします。

注: クロス集計が作成されていることを示すツールチップが表示されるまで、列のヘッダを押したままにしてください。

二次元の配列によって、各製造元のアラーム総数の重大度による内訳を見ることができます。また、クロス集計は、デバイス製造元ごとにアラーム数を比較する場合にも便利です。

6. 小計をテーブルに追加するには、次の手順を実行します。
 - a. テーブル内のすべてのアラーム カウント セルをハイライト表示します (行/列のヘッダを選択しないでください)。
 - b. [Σ] をクリックします。
 - c. [合計] を選択します。

クロス集計に製造元別と重大度別の小計が表示されます。

7. 棒グラフなど、このデータのグラフ表示を作成するには、次の手順を実行します。
 - a. クロス集計全体を選択し、右クリックして [コピー] を選択し、既存のクロス集計をコピーします。
 - b. 既存のクロス集計の下にカーソルを移動し、右クリックして [貼り付け] を選択します。

最初のクロス集計の下に、同一の 2 つめのクロス集計が表示されます。

- c. 下側のクロス集計を横棒グラフに変換するには、下側のクロス集計全体を選択し、右クリックして [変換] を選択します。

[変換] ウィンドウが表示されます。[変換] ウィンドウには複数のタブがあり、各タブが使用可能な異なるグラフ タイプに対応しています。

- d. [棒] タブをクリックし、[横棒] グラフ オプションを選択して、[OK] をクリックします。

クロス集計の下に、フォーマットされていない横棒グラフが直接表示されます。

8. 凡例およびデータ値を追加してレポートの形式を改善するには、次の手順を実行します。
 - a. 凡例を追加するには、グラフ全体を選択して、[データ] タブをクリックします。
 - b. [プロパティ] ボックスの [表示] セクションを展開します。
 - c. [凡例] チェック ボックスをクリックします。
 - d. データ値を追加するには、[表示] セクションの [値] サブセクションでグラフ全体を選択します。
 - e. [データ表示] チェック ボックスをクリックします。
レポートに凡例とデータ値の両方が表示されます。
9. グラフを変更して、CA Spectrum レポートのアラーム重大度用の標準カラー規則（レッド=重大、オレンジ=メジャー、イエロー=マイナー）を適用するには、次のタスクを実行します。
 - a. [表示] セクションと後続の [データ] セクションで、[パレット] オプションを選択します。
 - b. [パレットの選択] ダイアログで、[パレットの編集] を選択します。
 - c. 上部 3 つのボックスを指定して、色を変更します（レッド、オレンジ、およびイエロー）。
 - d. [OK] をクリックして、色パレットを変更します。
 - e. [OK] をクリックして、変更したパレットをグラフに適用します。
10. レポートのタイトルを更新するには、デフォルトのタイトル ボックスをダブルクリックして、新しいタイトルを入力します。
高度なフォーマットを使用した複雑なアドホック レポートが生成されます。
11. レポート内のデータをドリル ダウンして個別のアラームを表示するには、[ドリル] をクリックします。
必要なデータのレベルに到達するまで、テーブル レポート内のフィールドまたはグラフ レポート内のバーを選択して、ハイパーリンクのクリックを続けます。

第 5 章: WEBI サンプル レポート

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[WEBI サンプル レポートの使用](#) (P. 37)

[Report Manager サンプル \(WEBI\) レポートの Java エラーの解決](#) (P. 39)

WEBI サンプル レポートの使用

CA Spectrum レポートには、Crystal Report に基づく WEBI サンプル レポートが含まれています。この WEBI サンプル レポートで、いくつかの WEBI 機能を確認できます。

- グラフ表示
- データ集約機能
- 各種のレポート レイアウト
- クロス集計テーブルとピボット テーブル

WEBI サンプル レポートへのアクセス

WEBI サンプル レポートは、CA BusinessObjects InfoView からアクセスして実行できます。WEBI サンプル レポートをテンプレートとして使用すると、関連する CA Spectrum データを対象とした独自の WEBI ベース レポートを作成できます。

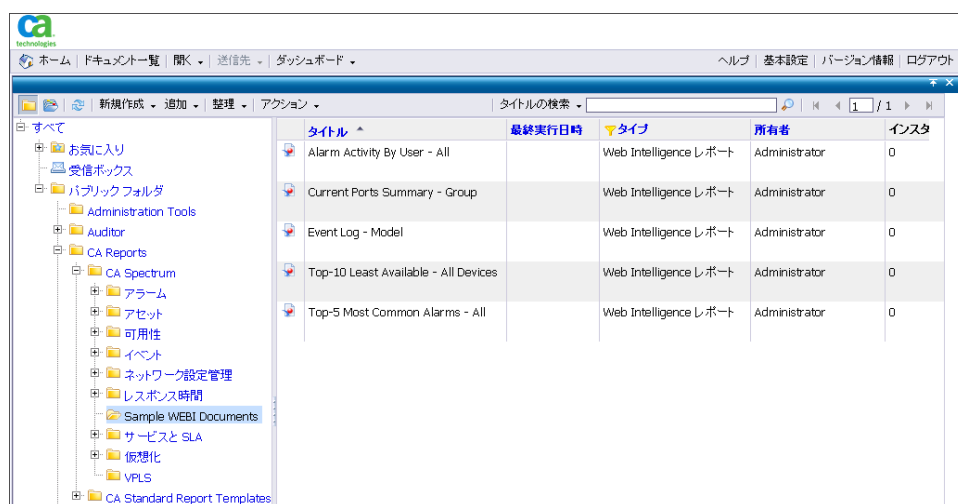
次の手順に従ってください:

1. [CA BusinessObjects InfoView] ウィンドウで、[ドキュメント一覧]、[パブリック フォルダ]、[CA Reports]、[CA Spectrum] の順に選択します。
2. [サンプル WEBI ドキュメント] を選択します。
使用可能なサンプル WEBI ドキュメントとレポートが表示されます。
3. 任意のレポートをダブルクリックして、レポートを実行します。
レポートが表示されます。
4. レポートにプロンプト ダイアログが表示された場合は、次の手順を実行します。
 - a. レポートのパラメータ値を指定します。
 - b. [クエリの実行] を選択します。
レポートが表示されます。

WEBI サンプル レポートのコピーおよび編集

WEBI サンプル レポートをベースとして使用し、コピーおよび編集して、独自の WEBI レポートを作成できます。

次の図に、WEBI サンプル レポートを示します。



重要: WEBI サンプル レポートは直接編集しないことを推奨します。レポートを別のフォルダにコピーし、そのレポートを編集してください。

次の手順に従ってください:

1. [パブリック フォルダ] レベルで、[CA Reports] フォルダ階層以外の場所に、カスタマイズした WEBI レポートを格納するフォルダを作成します。

注: [CA Reports] フォルダ内のコンテンツは製品のアップグレード時に上書きされる可能性があるため、[パブリック フォルダ] の下の [CA Reports] フォルダ階層以外の場所にフォルダを作成することが重要です。詳細については、「[CA Business Intelligence 統合ガイド](#)」を参照してください。

2. WEBI サンプル レポートにアクセスします。
3. コピーしたいレポートを選択し、右クリックして、[コピーの編成] を選択します。
4. 作成したレポート フォルダを選択し、右クリックして、[貼り付けの編成] を選択します。

レポートが右側パネルに表示されます。

5. コピーしたレポートをハイライト表示し、右クリックして、[変更] を選択します。

[アドホック レポート] パネルが表示されます。

- a. レポートの表示を編集するには、[レポートの編集] をクリックします。
- b. クエリを編集するには、[クエリの編集] をクリックします。

[アドホック レポート] パネルには複数の機能が提供されています。詳細については、「[アドホック レポートの生成 \(P. 27\)](#)」を参照してください。

Report Manager サンプル (WEBI) レポートの Java エラーの解決

症状:

Report Manager サンプル (WEBI) レポートで Java エラーが発生します。サンプル レポートを開くと、次のエラー メッセージが表示されます。

Java が、セキュリティ問題の発生が考えられるアプリケーション・コンポーネントを発見しました。危険である可能性のあるコンポーネントは実行しないでください。 (推奨) (はい/いいえ)

[はい] を選択すると、レポートの結果が表示されません。 [いいえ] を選択すると、レポートの結果が表示されます。

解決方法:

この問題は、Java 6 Update 17 以上のバージョンがインストールされている Windows システム上でブラウザを実行した場合に発生します。この問題を解決するには、以下の手順に従います。

1. [コントロール パネル] から [Java] を開きます。
2. [詳細] タブを選択します。
3. [セキュリティ] オプションを展開します。
4. [混合コード] オプションを展開します。
5. [有効 - 警告を表示せずに、保護をかけて実行する] を選択します。

Windows 上でレポートが正常に実行されます。